Ⅱ　実証研究報告

（１）地域スポーツクラブ活動実証研究報告

前橋市教育委員会　　前橋市立明桜中学校　・・・・・・・・・・・・・　12

渋川市教育委員会　　各スポーツクラブ　・・・・・・・・・・・・・・　14

榛東村教育委員会　　榛東村立榛東中学校　・・・・・・・・・・・・・　19

吉岡町教育委員会　　吉岡町立吉岡中学校　・・・・・・・・・・・・・　21

玉村町教育委員会　　玉村町立玉村中学校・南中学校　・・　23

（２）地域クラブ活動体制整備に係る検討委員会・指導者研修会等報告

榛東村教育委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　28

吉岡町教育委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29

玉村町教育委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31

（３）プロスポーツ団体連携報告書　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　32

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けた実証研究

成果報告書

市 町 村 名 【　前橋市　】

担 当 部 局 【　前橋市教育委員会・学校教育課　】

1　学校名 部活動名	前橋市立明桜中学校 女子バレーボール部
2　地域の運営団体・実施主体・指導者	はなまるジュニアクラブ （ミニバレーボールクラブ・スポーツ少年団） 関口　正江
3　地域の運営団体・実施主体・指導者との連携及び体制構築の概要	■外部指導者側から学校に、休日の活動に顧問が不在になるので、バレーボールの指導をクラブとして行いたい旨の依頼があった。（令和３年度） ■学校長から市教委へ、女子バレーボール部の休日練習を外部指導者である当該地域指導者に依頼したいとの連絡を受けた。 ■市教委から学校長へ、クラブによるスポーツ保険（スポーツ安全保険）加入をお願いするとともに、本事業についての実践研究協力をお願いした。 ■学校長と当該指導者は、生徒と保護者に対し、土曜日の活動及び保険加入等を説明した。（令和３年度１月より活動開始） ■保険加入のために、部員の生徒全員が保護者負担で支払った。現在、休日の部活動を「はなまるジュニアクラブ」として行っている。
4　運営団体・実施主体・指導者、学校等への支援	■学校長から連絡を受け、スポーツ保険の加入と生徒とその保護者への説明をお願いした。 ■クラブの指導者に対して実践研究協力をお願いした。
5　主な成果	■休日の部活動の地域連携・地域移行の段階的な実施に向けた実践研究事例となった。 ■教員の負担軽減につながった。 ■地域と連携・協働した活動になった。 ■生徒の休日の運動機会確保や技能の向上につながった。 ■長年、外部指導者として携わっていただいた指導者なので、学校や部活動、生徒への理解、保護者や生徒との信頼関係がある。スムーズに地域部活動として依頼できた。 ■休日のクラブでの活動を通して、生徒が様々な人と関わるようになった。
6　主な課題	■今後の費用負担の在り方 ■保護者・生徒の理解 ■施設（学校施設）利用の調整の仕方 ■生徒と地域指導者、学校との情報共有
7　学校部活動の地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	■学校と生徒・保護者、クラブのそれぞれが活動について、どのように考えているかをよく把握し、共通理解をもって進めていく必要がある。 ■学校と地域指導者の情報共有が必要。 ■持続可能な活動とするためには、クラブ内での指導者の育成や引継ぎが大切である。また、勝利至上主義にならないように複数の指導者で指導できる体制や、部活動運営や指導等に関する研修が必要である。 ■生徒目線を大切にし、生徒の活動の様子やニーズを把握しながら、柔軟な対応をしていく必要がある。
8　令和６年度以降の方向性	■令和４年度総合教育会議内で協議された今後の市の方針として、以下の方向性で取り組んでいく。 ・円満な移行に向けて検討委員会を立ち上げる。 ・現在活動している部活動から移行を検討する。 ・「地域」は、中学校区より広い範囲を想定する。 ・地域移行まで部活動指導員や部活指導協力者を確保する。 ■今年度に実施した市の実態調査（アンケート）を継続し、引き続き、実態を踏まえて、子供たちの活動場所が確保・創出できるような取組をすすめていく。 ■休日について、子供たちの興味関心に応じて取り組めるような事業やイベントを企画している各団体や庁内各所に働きかけたり、またはそれを運営してくれる団体等との連携を深めたりして、子供たちの休日の活動の場を増やしていく。

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けた実証研究

成果報告書

学 校 名【　前橋市立明桜中学校　】

1　学校の概要	○春日中学校と広瀬中学校の統合により令和３年度に開校した新設校で、今年度は３年目にあたる。校舎は改修し、体育館は新築のため、きれいで明るい環境の中、生徒は元気に学校生活を送っている。 ○全校生徒 312 人　学級数１４学級（通常学級１０・特別支援学級４） ○部活動 野球、サッカー、陸上、ソフトテニス男・女、バスケットボール男・女 バレーボール女子、卓球男子、吹奏楽、美術
2　部活動の概要	〔 部活動名 〕　女子バレーボール部 〔学年・人数〕　３年 10 人　２年 11 人　１年 13 人　合計 34 人 〔 顧　　問 〕　１名　主顧問：競技歴　無し　・　指導歴　無し
3　地域の実施主体 指導者の概要	〔団体名〕はなまるジュニアクラブ（地域小学生バレーボールクラブ） ・前橋市上川淵地区の小学生バレーボールチームで、男女ともチームがある。活動は、平日火、水、木曜の 17:30～19:30、土曜 9:00～12:00、および不定期の日曜日。主に上川淵小学校体育館を拠点に活動している。 〔指導者・指導歴・資格等〕 ○関口正江 ジュニアバレーボール指導 40 年以上　日本スポーツ協会指導員 ○矢端 政文 群馬県スポーツ少年団指導員
4　地域の実施主体 指導者との連携 工夫の概要	○顧問は、運動部の主顧問やバレーボール競技経験もなく、不安であったが、関口コーチは、土日以外の平日も指導してくださり、安心して部活動を任せることができている。 ○顧問と地域指導者とがどのようなチームを作っていくのか、また、生徒一人一人についてどのように指導していけばよいか等を細かく話し合いながら、指導について共通理解を図るようにしている。
5　活動の概要 活動の様子	○毎週土曜日　９：００～１２：００　明桜中学校　体育館 ○トレーニング→フットワーク→パス練習→サーブ練習→レシーブ練習→フォーメーション練習→ゲーム
6　主な成果	○顧問教諭が指導できなくても、専門的な指導をしてもらえるため、練習や練習試合が充実した活動になり、生徒や保護者の充実感や満足感を得られるとともに、顧問教諭の精神的負担や責任が減った。 ○顧問教諭の土日の部活指導に割いていた時間が無くなるため、勤務時間の縮減ができ、ゆとりある生活ができるようになった。 ○小学校から同クラブに所属してきた生徒にとっては、中学生になっても一貫した指導を受けられるため、技術面や精神面でのいっそうの成長を期待できるとともに、生徒及び保護者と指導者との信頼関係を構築しやすい。
7　主な課題	○専門的な技術指導を受けられることは利点の一つではあるが、事前に説明はしているものの、クラブチーム並みの練習を求めていない生徒もおり、生徒の中に、温度差が生まれてしまうということ。 ○顧問はほとんど指導していないのに、中体連の大会では監督となってしまうこと。メインで指導している者が「監督」をしたほうが良い。関口コーチや生徒・保護者にとっても、そのほうがスムーズに感じる。
8　学校部活動の地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	**○地域部活動指導者が生徒、保護者および顧問から信頼される人物であること。** **○顧問との連携がとれるように、学校に頻繁に来ることができること。** **○入部前に、保険料の費用負担や練習内容について生徒、保護者の理解を得られること。** **○土日の練習試合に顧問は参加しないため、バレー経験のない顧問は、審判ができないままになってしまうこと**

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けた実証研究

成果報告書

市 町 村 名 【　渋川市　】

担 当 部 局 【　渋川市教育委員会　】

1　学校名 部活動名	■　渋川市立渋川北中学校　バレーボール部 ■　渋川市立渋川北中学校　体操部 ■　渋川市立古巻中学校　野球部　スケート部
2　地域の運営団体・実施主体・指導者	■　部活動地域移行クラブ（バレーボール）代表：諸田　賢 ■　渋川スケートクラブ　代表：井口　博之 ■　渋川市体操クラブ　代表：高橋　直樹 ■　ＳＹＣ（軟式野球クラブ）　代表：吉田　和範
3　地域の運営団体・実施主体・指導者との連携及び体制構築の概要	■　渋川スポーツ協会、渋川スポーツクラブ、渋川市スポーツ少年団、育都推進部スポーツ課、渋川市教育委員会学校教育課、生涯学習課、渋川市中学校体育連盟、小学校体育研究会、ＰＴＡ連絡協議会の代表の方々に全５回の部活動地域移行検討委員会に参加していただき、休日部活動の段階的な地域移行に関する検討や情報交換を行った。 ■　今年度からクラブに移行したスケート、生徒のニーズに指導者が応えて立ち上げたクラブの軟式野球と体操、今後部員数が減少する中でクラブ化の足がかりとして練習会を実施したバレーボールの４競技で取り組んだ。 ■　部活動地域移行検討委員会で先行実施状況を報告し、来年度移行の部活動地域移行の取組の参考にした。
4　運営団体・実施主体・指導者、学校等への支援	■　学校部活動の現状と実態を把握する中で、市内各中学校の部活動数、部員数、外部指導者を確認した。そして、今後に向けての部活動地域移行の方向性を示した。 ■　中学校長協議会で地域スポーツクラブ活動体制整備事業の共通理解を図り、本年度実施するクラブを示した。 ■　地域クラブ活動としての練習環境を整えるため、学校やスポーツ課と連絡を取り合い情報提供した。
5　主な成果	■　渋川市教育委員会だけでなくスポーツ担当部局と協力して活動することで、市内のスポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツクラブ、中学校体育連盟等、地域のスポーツ関係の方々と休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けて協議ができた。 ■　中学校長会と連携し、地域移行に向けたモデル校を指定し実証的な活動をすることができた。
6　主な課題	■　指導者 指導者が資格を持っているか、また賠償責任保険に入っているか、保険料を市の負担とするか自己負担とするのか等がクラブ数を増やしていく上で課題となった。またクラブ内での参加費の設定、活動場所の確保、指導者の規律確保も課題である。 ■　保護者 指導者との人間関係について、生徒だけでなく保護者との人間関係にも注意が必要となった。
7　学校部活動の地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	■　学校と地域クラブ活動を繋げる担当者（コーディネーター）が必要である。 ■　地域移行を推進するにあたり、地域移行を推進する部局（事務局）や担当者（コーディネーター）、と学校との情報共有を密にする必要がある。 ■　段階的な地域移行を推進するにあたり実態調査のため、市内児童・生徒とその保護者にアンケートを実施して、現状を把握することが必要である。 ■　予算は部活動指導員と同じように時間数にあった金額と旅費等の交通費しか考えていなかった。しかし、今後地域移行にするにあたり、指導者の賠償責任保険等も考える必要がある。また中体連の全国大会、関東大会にクラブで参加する際の市の補助金の要綱等を見直し、地域移行にかかわる財政面を検討する必要がある。
8　令和６年度以降の方向性	■　令和６年度からの部活動地域移行推進委員会の組織を拡大し、構想や方向性を検討する。 ■　バレーボール、スケート、軟式野球、体操は来年度も継続し、競技をさらに拡充し持続可能な部活動の地域移行を前向きに進めていく。

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けた実証研究

成果報告書

団 体 名 【　部活動地域移行クラブ（バレーボール）】

1　運営団体・実施主体・指導者の概要	■諸田　賢　（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者バレーボールコーチ１） ■後藤　誠　（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者バレーボールコーチ２） ■田村　寿夫（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者バレーボールコーチ２） ■岩崎　博和（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者バレーボールコーチ１）
2　対象生徒	■子持中学校　・・・　女子４名 ■渋川北中学校・・・　男子 12 名　女子 13 名
3　実施概要 活動の様子	■バレーボールの基本的なフォームの確認。 ・アンダーハンドパスやオーバーハンドパス、スパイク、サーブを中心に初心者のために基本的な動きを確認しながら指導した。

4　教育委員会や学校等との連携	■バレーボール部がある市内の中学校に訪問し、今回の活動内容の趣旨を説明し実施した。 ■体育館使用許可を教育委員会と連携して学校長へ依頼した。
5　主な成果	■参加者へのレシーブ・トス・アタック・サーブの基本的のフォームや体の動かし方の指導することができた。
6　主な課題	■中学生は成長期にあたり男女での力の差があるため、練習メニューを対象者に合わせて構築する必要がある。 ■活動拠点が明確でないため、練習場所の確保、道具等の準備が課題である。
7　地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	■学校との連携を密にし、学校部活の補助的存在として活動する。 ■学校行事を最優先事項として活動する。 ■今年度、上手く行うことができたがこれを今後継続していくために、クラブ会則を作成し活動・運営を行う必要がある。
8　令和６年度以降の方向性	■現在市内３校（うち男子は１校、女子は３校）にバレーボール部が存在するが、将来的には市内全域を対象として活動することを目標とする。

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けた実証研究

成果報告書

団 体 名 【　渋川市体操協会　】

1　運営団体・実施主体・指導者の概要	渋川市体操協会 指導者　高橋直樹、茂木伯文、清水健二、その他協会所属の指導者 （すべて渋川市体操協会所属の指導者）
2　対象生徒	■ 渋川市体操協会に加盟し、中体連の大会に出場する意思を持った生徒及び協会主催の体操教室に参加している小学生で中学校でも継続して行う意欲を持った児童。 ■ 現在、中学生は男子２名、小学生は男子５名程度、女子７名程度が活動している。
3　実施概要 活動の様子	現在に至るまでの経緯 ■ 代表である高橋直樹が渋川北中学校の教員時代に体操部顧問であったこともあり、退職後も継続して指導していたところ、部活動指導員の制度が始まりそのまま部活動指導員として継続して指導していた。しかし、令和５年の夏の大会をもって渋川北中学校の体操部が廃部となったことを受け、教育委員会やスポーツクラブの社会体育移行担当者から本制度を紹介され、現在に至っている。また、登録させてもらった指導者は３人であるが、いつも指導に来られる状態ではないため、３人以外の指導者も指導に来てもらっている。 活動の様子 ■ 平日は水曜の夜７：００～９：００に社会体育の開放事業により渋川北中学校の体育館を借りて実施。 ■ 休日は土日のどちらか１日に実施。学校の体育館部活動の一コマに入れてもらい実施日を調整して行わせてもらっている。休日の練習は中学生と継続して練習する意欲を持った小学生のみで実施している。
4　教育委員会や学校等との連携	■ 渋川北中学校の体操部が廃部になることになり、その後の受け皿として体操協会が請け負うことになった。その際、教育委員会や渋川市スポーツクラブの方と数回打ち合わせを行い、群馬県で行っているこの事業を紹介してもらった。実施報告等、教育委員会の担当者にお世話になっている。 ■ 学校の教員には体操部の担当者を置いてもらい体育館の調整や細かい連絡等を取らせてもらっている。
5　主な成果	■ 部活をやりたくてもできなかった状態から少しでもやりたい部活ができる状態になったと思われる。中学校で体操部がないところが多く渋川北中が最後の砦であったが、今後は体操協会に入ってもらうことにより体操部がない学校の生徒でも体操が練習でき、中体連の大会にも出場が可能となったことは大きな成果である。また、小学生から中学生と一緒に練習することで、少ない練習回数でも技術の習得が可能となり、大会への出場のチャンスが増えると思う。
6　主な課題	■ 今後も学校の担当者が必要である。また、体操部があった中学校なので練習器具がそろっており、今後も渋川北中学校の体育館を使用させてもらわないとこの事業が継続できない。専用の体育館があれば理想である。 ■ 専門性の高い競技であるため、経験のある指導者でないと指導できない。渋川市体操協会は少人数で活動しているため、指導者の確保が大きな課題である。 ■ 今後、平日にも練習が行えるようになった場合に、渋川北中学校以外の子供たちがどのように通うかが課題である。現状は親の送迎がないとできない。
7　地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	**■ 練習器具が充実しているという点で今後も渋川北中学校を使わせてもらいたいが、学校の事情もあると思うので、学校との連絡調整等はしっかりと行っていくことが必要。** **■ 我々のやり方だと、学校の理解が十分でないとできない。**
8　令和６年度以降の方向性	**■ 今までは協会に加盟してもらい、傷害保険をかけ、月に１０００円程度の会費で行っていたが、来年度からは、子供たちや親の要望にこたえられるように、基本コース（月１０００円）と選手コース（月２０００円）に分けて実施する予定である。** **■ 中学生は部活動の代わりになるように選手コースを選択してもらうようにする。また、可能な限り平日にも練習日を設定できるように取り組んでいく。学校側には迷惑をかけることも多々あるが、理解をしていただきながら取り組んでいきたい。**

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けた実証研究

成果報告書

団 体 名 【　SYC　】

1　運営団体・実施主体・指導者の概要	運営団体・実施主体－ＳＹＣ 指導者の概要 監督（日本スポーツ区協会軟式野球コーチ）を中心に、元中学校野球部顧問、実軟野球の現役選手がコーチとして、ほぼマンツーマンでの指導を進めている。
2　対象生徒	渋川市立子持中学校　　６名 渋川市立赤城南中学校　１名 渋川市立渋川北中学校　１名
3　実施概要 活動の様子	■　土日、祝日にクラブとしての練習、中学校野球部員を対象とした野球教室を実施している。 ■　子供たちの目線に合わせた指導を心掛け、守備や打撃・走塁などの基本を中心に練習している。
4　教育委員会や学校等との連携	■　渋川市主催の部活動外部指導者研修会に参加するなど、部活動の地域移行に係る情報の共有を心がけている。 ■　各中学校の野球部顧問と連携し、情報共有しながら、計画的に指導に当たっている。 ■　中学校の野球部との合同練習会や、野球教室を計画的に実施している。
5　主な成果	■　中学校の野球部の廃部に伴い、活動する機会を失った中学生に野球に取り組む場を与えることができた。
6　主な課題	■　学校から離れた練習会場への子供の移動（送迎）に関する保護者の負担 ■　クラブとして参加できる大会がない。 ■　指導者の仕事と野球の指導との両立。
7　地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	**■　練習会場の確保、環境整備** **■　保護者の負担軽減（会場への移動、経済的な負担）** **■　中体連大会への参加**
8　令和６年度以降の方向性	**■　令和６年度は中体連に登録し、中体連大会への参加を目指す。** **■　選手の特性に沿った指導を心がけ、投げる・打つ・守るなどの野球の基本的な技術の向上を図るとともに、選手が一人の人間として成長することを助ける指導を心がける。** **■　中学校の部活動地域移行の更なる情報収集に努める。**

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けた実証研究

成果報告書

団 体 名 【渋川スケートクラブ（渋川スポーツ協会スケート部）】

1　運営団体・ 実施主体・ 指導者の概要	渋川スケートクラブ 群馬県スケート連盟　強化コーチ JSPO 指導者資格保有者
2　対象生徒	渋川北中学校 渋川古巻中学校　　2 中学校　3 名
3　実施概要 活動の様子	■夏季　ALSOK 群馬総合スポーツセンターを活動拠点として陸上練習を実施 ■冬季　群馬県総合スポーツセンター伊香保リンクを活動拠点として氷上練習を実施
4　教育委員会や学校等との連携	■事務手続きや全国大会へ出場するときの費用面について協議を行った。
5　主な成果	■練習環境に変化なく練習ができた。
6　主な課題	■全国中学校総体出場にあたり、学校登録とクラブ登録で費用に差が出るのは不公平と感じた。 ■初めての事を行っているので、担当者が方向性とスピード感を持ちながら責任を持って業務に従事していただかないと現場（団体）が混乱する。 ■全国中学校総体等、日本中学校体育連盟が主催する大会へ参加する場合、選手、監督、コーチ等の費用負担が部活動の地域移行で減額になることは地域移行推進への課題となる。
7　地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	**■部活動地域移行担当者から各団体へ情報伝達と共有する際、事前準備において各組織と連盟、保護者と今後の方向性を明確にした方がよい。** **■費用面において、今までの学校側が負担していた費用をそのまま継続して負担してもらえるか確認する必要がある。**
8　令和６年度以降の方向性	**■全国中学校総体等、日本中学校体育連盟が主催する大会への参加に際し、指導者、生徒ともに部活動に近い指導・対応をしていきながらクラブの方向性を継続する。**

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けた実証研究

成果報告書

市 町 村 名 【　榛東村　】

担 当 部 局 【　榛東村教育委員会　】

1　学校名 部活動名	榛東村立榛東中学校 男子バレーボール部　　体操部
2　地域の運営団体・実施主体・指導者	【男子バレーボール部】 しんとうスポーツクラブ　ペガッソＶＣ （総合型地域スポーツクラブ） 指導者　南　智 【体操部】 しんとうスポーツクラブ　しんとうＲＧクラブ （総合型地域スポーツクラブ） 指導者　村上　誠
3　地域の運営団体・実施主体・指導者との連携及び体制構築の概要	■学校長と両クラブの指導者、教育委員会事務局担当者による検討会議を実施し、休日の部活動の段階的な地域移行に関する検討や課題の共有、情報交換を実施した。 ■各団体の指導者に、部活動指導員や外部指導者として学校部活動に関わってもらった。
4　運営団体・実施主体・指導者、学校等への支援	■地域クラブ活動として活動するために、榛東村総合型地域スポーツクラブに加入したことにより、以下の３点を実施した。 ○社会体育施設使用の際にかかる費用の減免措置 ○総合型地域スポーツクラブが一括で加入する賠償責任保険加入事務の支援と共に、費用の一部補助 ○活動場所となる社会体育施設の使用申請事務の支援
5　主な成果	■生徒たちが安全面に配慮しながら専門的な指導を受けることができた。 ■生徒たちが各スポーツクラブにいる地域の指導者と交流をもつことができた。 ■地域スポーツクラブの指導者が学校の外部指導者や部活動指導員を兼ねていたため、顧問との連絡調整や情報共有がスムーズにできた。
6　主な課題	■種目によっては、専門的な知識をもつ地域人材の発掘が困難である。協議会委員からの情報や地域指導者の人脈等も活用しながら指導者を発掘していく必要がある。 ■地域移行を担う指導者が、生徒や保護者と良好な関係を築き、継続的に指導をしていくために必要となる指導力向上やコンプライアンス意識を向上させるための研修会を定期的に開催していく必要がある。 ■地域移行の受け皿となる団体もしくは個人へ持続可能な形で報酬を支払うための制度設計をしていく必要がある。
7　学校部活動の地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	**■部活動地域移行の担当と地域スポーツ担当が連携し、こまめに情報交換を行える連携体制を構築することが重要である。** **■地域移行の担い手と定期的に情報交換し、課題を把握することで課題可決に向けた制度設計等を検討する。** **■地域スポーツ活動への知識だけでなく学校教育のこともよく理解し、生徒や保護者と良好な関係を築くことのできる指導者の発掘していく必要がある。**
8　令和６年度以降の方向性	**■担い手となりうる地域指導者との面談等を実施し、地域移行の意思の確認や、移行実施に当たっての課題把握をしていきたい。** **■推進計画等を策定し、地域指導者や保護者、生徒に村の方針を理解してもらいながら地域移行を進めていく。**

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けた実証研究

成果報告書

学 校 名【　榛東村立榛東中学校　】

1　学校の概要	生徒・教職員の共通テーマ「自立・創造・貢献」 ○生徒数　３６２名 ○学級数　１５学級 ○部活動数　１９部活動
2　部活動の概要	〔 部活動名 〕　男子バレーボール部 〔学年・人数〕　３年７人　２年３人　１年７人　合計１７人 〔 顧　　問 〕　２名　主顧問：経験歴・指導歴無し 副顧問：経験歴・指導歴無し 〔 部活動名 〕　体操部 〔学年・人数〕　３年２人　２年１０人　１年０人　合計１２人 〔 顧　　問 〕　２名　主顧問：経験歴・指導歴無し 副顧問：経験歴・指導歴無し
3　地域の実施主体・指導者の概要	〔団体名〕しんとうスポーツクラブ　ペガッソＶＣ 〔指導者〕南　智 〔指導歴・資格等〕日本スポーツ協会　コーチングアシスト バレーボールコーチ 〔団体名〕しんとうスポーツクラブ　しんとうＲＧクラブ 〔指導者〕村上　誠 〔指導歴・資格等〕アシスタントマネージャー
4　地域の実施主体･指導者との連携･工夫の概要	○両指導者ともに部活動指導員及び外部指導者として中学校の部活動指導に関わっている。 ○指導内容や指導方針については、平日と休日で差が出ないよう、顧問と両指導者で共通理解を図った上で指導に当たっている。
5　活動の概要 活動の様子	しんとうスポーツクラブ　ペガッソＶＣ ○令和５年４月から毎週土曜日に実施 毎週土曜日　社会体育施設しんとうスポーツアリーナ ○活動内容 準備運動→ボールを使ったウォームアップ→サーブ・レシーブ練習といった個人技術向上のための練習 しんとうスポーツクラブ　しんとうＲＧクラブ ○令和５年４月から毎週土曜日に実施 ○活動内容 準備運動　→　マット運動　→　跳び箱　→　器械体操　→　演技指導
6　主な成果	○子どもたちがそれぞれの競技の専門的な知識をもつ指導者から直接指導を受けることができたため、個々の技能向上につながった。 ○子どもたちが総合型地域スポーツクラブへの参加となったため、近隣の学校の生徒と共に活動することができたことで意欲向上につながった。 ○地域指導者が入ったことにより、顧問の休日の時間外勤務が減り、働き方改革につながった。
7　主な課題	○生徒の取り組む姿勢には少なからず温度差があるため、練習内容に不満をもつ生徒もでてくることが考えられる。 ○地域のクラブの指導者の皆さんには、学校でのトラブル・人間関係等にも配慮しながら指導に当たってもらう必要があるので、対応するための技能を身に付けてもらうための研修等を実施していく必要がある。
8　学校部活動の地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	**■地域クラブ活動の指導者が、子どもたちのニーズを把握した上で、活動内容を検討していく。** **■保護者に、地域クラブ活動の理念や活動方針等を理解してもらい、協力体制を構築していく。**

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けた実証研究

成果報告書

市 町 村 名 【　吉岡町　】

担 当 部 局 【　吉岡町教育委員会・生涯学習室　】

1　学校名 部活動名	吉岡町立吉岡中学校 ソフトボール部、卓球部、女子バレーボール部
2　地域の運営団体・実施主体・指導者	運営団体：吉岡町教育委員会（地域学校協働センター） 実施主体・指導者： ・ソフトボール：吉岡町スポーツ協会ソフトボール部 （金井英麿、櫻井 徹） ・卓球：吉岡町スポーツ少年団卓球団（髙野和人） ・女子バレーボール：吉岡町スポーツ少年団バレーボール団 （飯塚敏雄）
3　地域の運営団体・実施主体・指導者との連携及び体制構築の概要	■中学校長と地域移行担当教諭、教育委員会指導主事、教育委員会地域移行担当者２名（地域学校協働センター事務局）の五者による定例会議を毎月実施し、休日部活動の段階的な地域移行（以下「地域移行」という。）に関する検討や情報交換を行った。 ■吉岡町部活動検討委員会（以下「検討委員会」という。）を組織し、地域スポーツ団体関係者、中学校代表、保護者代表、有識者等に委員を委嘱した。実践研究対象部活動の競技（ソフトボール、卓球、バレーボール）の地域スポーツ団体代表にも委員をお願いした。 ■検討委員会で、地域移行先行実施状況を報告し、ソフトボール部や卓球部、バレーボール部以外の競技における地域移行に向けた取組の参考とした。 ■部活動顧問や地域指導者、保護者会長、教育委員会担当者等による打合せ会議を実施し、地域移行に関する実施概要・計画等を話し合うとともに、課題等を共有した。
4　運営団体・実施主体・指導者、学校等への支援	■部活動顧問や地域指導者、保護者代表、教育委員会担当者等による地域移行に関する検討の場を設定し、吉岡町の地域移行構想を説明し、ソフトボール部、卓球部、女子バレーボール部の取組を開始してもらった。 ■地域スポーツクラブ（スポーツ少年団、スポーツ協会）としての活動が安心してできるようにするため、部員全員に対してスポーツ安全保険に加入し、費用は町が負担した。 ■地域スポーツクラブ（スポーツ少年団、スポーツ協会）としての練習環境を整えるため、吉岡町社会体育施設の使用を優先的に認めたり、使用料金を免除したりした。 ■中学校長や部活動顧問、地域指導者との連絡を日頃から密に取り合い、地域移行に向けた取組や課題等を随時話し合った。
5　主な成果	■地域移行の先行実践事例となり、他の部活動（競技）の地域移行に向けた取組の参考となった。 ■部活動指導員や外部指導者として長年に渡り中学生の指導に携わってきた方に、地域スポーツクラブとしての指導をお願いしたので、生徒や保護者からの信頼が強く、関係が大変良好であった。 ■生徒にとっては、専門的な指導を受けることができるとともに、地域の大人と交流する場となった。 ■顧問にとっては、専門的な指導を学ぶことができるとともに、休日における時間的な負担軽減に繋がった。 ■地域と学校が連携・協働した活動を展開することができ、中学校が目指す「地域とともにある学校」の具現化の一翼を担った。
6　主な課題	■部活動顧問と地域指導者との連携（指導方針のすり合わせ、練習試合の対応、怪我やトラブル発生時の対応等） ■指導者の金銭的な負担軽減（スポーツ安全保険料） ■保護者や指導者の負担軽減に向けた町の財政的支援の継続 ■生徒や保護者、地域住民等の理解を得るための周知方法と場の設定 ■活動場所の優先確保
7　学校部活動の地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	■地域移行を中心となって推進する部局（事務局）を明確にした上で、地域移行に関する自治体としての構想や方向性、プラン、スケジュール等の検討を早急に行い、できるだけ早期に検討委員会を組織すること。 ■学校と地域スポーツクラブを繋げる担当者（コーディネーター）をおくこと。 ■地域移行を推進する部局（事務局）や担当者（コーディネーター）と学校との連絡会議を定期的に実施すること。 ■生徒や保護者・教職員・地域指導者・地域住民等の思いを大切にして、できることから地域移行の取組を進めること。また、そのためにアンケート調査を実施したり、意見等を聞く場を設けたりことが大切。 ■地域移行が可能な部活動から取組を開始すること。 ■自治体の特性や地域の資源（指導者、施設など）を生かした地域移行を進め、持続可能な体制を構築すること。 ■自治体は、地域移行に係る財政的な支援を考えること。
8　令和６年度以降の方向性	■令和４年度の柔道部・剣道部、令和５年度のソフトボール部、卓球部、女子バレーボール部等の先行事例を参考にして、吉岡中学校の他の部活動においても、令和６年度以降、休日部活動の段階的な地域移行の取組をさらに進め、推進計画年次目標の達成を目指す。（令和６年度の年次目標：令和６年度末までに、複数部活動において、恒常的に休日の部活動を地域クラブ活動へ移行する。） ■小学生・小学生保護者対象のアンケート調査の実施並びに周知・説明の場の設定。 ■地域スポーツ指導者向け研修会のさらなる充実。

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けた実証研究

成果報告書

学 校 名【　吉岡町立吉岡中学校　】

1　学校の概要	自信と笑顔あふれる学校を目指しています。 ○生徒数　７００名 ○学級数　２５学級 ○学校教育目標 ・吉岡 Pride 自信と笑顔あふれる学校づくり　～地域とともにある学校～ ○部活動 野球、ソフトボール、バスケットボール男･女、バレーボール男･女、ソフトテニス男･女、卓球男･女、バドミントン女子、サッカー、柔道男･女、剣道男･女、陸上男･女、駅伝、吹奏楽、合唱、美術、文芸
2　部活動の概要	〔 部活動名 〕　卓球男･女 〔学年・人数〕　２年２１人　１年１４人　合計３５人 〔 顧　　問 〕　３名　主顧問男：経験歴指導歴有り、女：経験指導歴無し 副顧問：経験歴無し・指導歴有り 〔 部活動名 〕　ソフトボール･女 〔学年・人数〕　２年９人　１年７人　合計１６人 〔 顧　　問 〕　２名　主顧問：経験歴・指導歴無し 副顧問：経験歴無し・指導歴有り 〔 部活動名 〕　バレーボール･女 〔学年・人数〕　２年１２人　１年６人　合計１８人 〔 顧　　問 〕　２名　主顧問副顧問ともに：経験歴・指導歴有り
3　地域の実施主体・指導者の概要	〔団体名〕吉岡町スポーツ少年団・スポーツ協会 〔指導者〕 卓球：髙野和人〔歴・資格等〕１９年・JSPO コーチングアシスタント ソフトボール：金井英麿〔歴・資格等〕７年・JSPO コーチングアシスタント 櫻井　徹〔歴・資格等〕２年・JSPO スタートコーチ取得予定 バレーボール：飯塚　敏雄　〔歴・資格等〕２０年・JSPO スタートコーチ
4　地域の実施主体・指導者との連携・工夫の概要	○卓球、ソフトボールについては部活動の外部指導者として過年度から部活動の指導・大会に顧問と同行して指導をお願いしていた。髙野、金井、櫻井氏ともに「顧問の指導を中心とした部活動の在り方ができる対応力」や「生徒や保護者と上手に関わることができるコミュニケーション力」を備えており、信頼して指導を任せられると判断し、今回の地域クラブ活動指導者をお願いした。 ○バレーボールについては地域の実情や吉岡町の部活動の休日地域移行を牽引している飯塚氏自らが今年度途中より、外部指導者として部活動の指導・大会に顧問と同行して指導をお願いした。飯塚氏も「顧問の指導を中心とした部活動の在り方ができる対応力」や「生徒や保護者と上手に関わることができるコミュニケーション力」を備えており、信頼して指導を任せられると判断し、今回の地域クラブ活動指導者をお願いした。 ○技術的な指導の内容や方法においては、顧問と外部指導者で指導方針を確認してから生徒に具体的な指示を行い、一方任せにしないよう配慮した。 ○学校教育における部活動の位置付けや顧問と外部指導者の役割などを明らかにし、事故が発生した場合の対応等、顧問と外部指導者との間で十分な調整を行った。

5　活動の概要 活動の様子	○概要 ・卓球１２月、ソフトボール５月、バレーボール９月から本実施。月１回程度から様子を見て今後は、２回、３回と外部指導者のみの活動を予定している。 ・毎週原則土曜日　９：００～１２：００　吉岡中校庭（ソフトボール）、吉岡中体育館（卓球）、吉岡町社会体育館（バレーボール）、もしくは練習試合会場（どの部も該当）等 準備体操 → 基本技練習→ 応用練習 → 試合形式の練習 → 練習試合
6　主な成果	○外部指導者を活用することの効果は、「顧問の指導力の補完」「生徒の活動意欲喚起」等に見られた。 ○経験豊かな地域指導者の指導により、指導体制が強力になり、生徒の技術が向上した。 ○休日の部活動に、教員が出ていた時は精神的・身体的にもかなりの負担がかかっていたが、地域指導者の導入により、教員本来の仕事に集中でき負担が減ったことが実感できた。 ○外部指導者が地域指導者ということで学校や部活動の実態をしっかりと認識しており、さらに生徒と保護者も地域指導者のことをよく知っているので、スムーズに活動することができた。
7　主な課題	○生徒の取り組み方・姿勢の温度差や人間関係にも配慮しながら技術指導をしなければならない現実とともに、それが負担になっているとも考えられる。 ○地域指導者が欠席するときの生徒への連絡等、顧問と地域指導者との連絡を密にしなければならない。 ○生徒の「学校でのトラブル・人間関係」「家庭状況」など顧問から地域指導者へこまめな情報交換が必要である。 ○学校管理下（主に体育館関係）で練習等を実施するため、鍵等の受け渡しをあらかじめしなければならなくなるなど、上記の内容とも重複するが、顧問と地域指導者ともに本来の指導以外の負担がある。 ○今年度は、生徒の保険料は町が出してくれたが、継続的に移行していくためには生徒負担にしていく必要がある。
8　学校部活動の地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	**○同じ学校内の部活動でも、競技によって生徒の実態や保護者、地域環境、中体連競技部の考え方など、実情が異なるため、学校全体の地域移行への認識と意識を共有することが重要である。** **○顧問と地域指導者がお互いに尊重し連携体制を構築し、こまめなコミュニケ―ションが取れるかどうかが大変重要である。** **○今後、保険料等の費用の負担に保護者の理解が得られるようにすること。** **○指導者がより信頼されるようになるために、資格など取得してもらえるよう支援が必要である。**

令和５年度群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の運動部活動の段階的な地域移行に関する実証研究

成果報告書

市 町 村 名 【　玉村町　】

担 当 部 局 【　玉村町教育委員会　】

1　学校名 部活動名	玉村中学校　ソフトテニス部（男・女） 軟式野球部 南中学校　ソフトテニス部（男） 軟式野球部
2　地域の運営団体 実施主体・ 指導者	玉村町ソフトテニスクラブ（地域クラブ） 石原田　茂　　大墳　将平　ほか 玉村南メビウス（スポーツ少年団） 秋山　貴広　ほか
3　地域の運営団体・実施主体・指導者との連携及び体制構築の概要	（ソフトテニス） ■指導者は部活動顧問経験者または、両中学校のソフトテニス部ＯＢもいるため、各校の部活動の様子を把握しやすい。顧問とは指導者の連絡係が練習内容や生徒の情報等について日常的に情報交換を行った。 （軟式野球） ■両中学校の軟式野球部にはメビウス出身の生徒が複数名いる。また、実施前から部活動とクラブとの合同練習を行うなどの交流があったため、顧問とクラブ指導者の情報交換を行いやすかった。
4　運営団体や指導主体、指導者・学校等への支援	■活動実施前に、各中学校の全保護者向けに教育委員会からの通知を発出したり、保護者会での説明を行ったりして理解を得られるようにした。 ■指導者の希望や学校の顧問の考えを基に、部員・保護者向けの注意事項を配布し、指導方針や参加する上での心構え、緊急時の連絡手段等を示した。
5　主な成果	■指導に対する負担感が減少されるとともに、休日を自分の時間として使えるようになり業務改善につながった。 ■技術の上達や意欲の向上という面において、大きな成果があった。クラブでの練習内容を平日の部活動練習に取り入れるなど、生徒の主体的な取組のきっかけづくりとなった。 ■２競技ともに、２つの学校の合同、ソフトテニスでは男女合同での練習ともなるため、指導者や仲間がいつもと違う環境で、刺激や緊張感を持って切磋琢磨できる。 ■指導に協力してくれる方の中には、両中学校の部活動のＯＢも複数名いたことで、地域の中で世代を超えたつながりが生まれた。この流れは地域での継続的な指導体制につながるものと考える。
6　主な課題	■今回協力をいただいた二つのクラブは、学校の指導者のニーズと、地域のクラブの実態がうまくマッチしたので実現となったが、他競技に広げるためには、受入れ団体や指導者の確保や、学校のニーズ、保護者の理解等、様々な課題があり、難しい面も多い。 ■生徒指導面で心配な生徒への対応や、部活動を一生懸命やりたくない生徒に対する指導はクラブとしての役割を超えているのではないかという意見もある。地域移行とはいえ、子どもの指導についての情報共有や協力体制等について、学校の協力は不可欠である。 ■学校施設を使用したソフトテニスの場合、ほかの部活動が活動していない時間に使用する場合には、先生がいないため、トイレが使用できなかった。また、緊急時（ＡＥＤ等）に校内に入れないという問題も心配である。 ■軟式野球においては、スポ少が日頃使用しているグラウンドを使用したが、場所が遠くて苦労したり、用具を運ばなければならなかったりすることに不満を感じる生徒もいる。また、少年野球規格のベース間隔やボールに戸惑う生徒もいる。
7　学校運動部活動の地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	**■保護者や受入れ団体としても「部活動」という言葉が学校と切り離せないものであるという認識が強く、大人側の「部活＝学校教育」という意識により、保護者も指導者も踏み込めない部分が多く、責任の所在があいまいになってしまう。地域移行の趣旨を、地域や保護者に対して丁寧に説明していく必要がある。** **■受入れ団体と部活動顧問とが連携して情報共有することは不可欠であるが、そのために先生に休日の活動に参加してもらうことや、平日に地域クラブ担当者に学校に来てもらうことは難しい。**
8　令和６年度以降の方向性	**■ソフトテニス部及び軟式野球の活動については、年度当初から継続的に実施をしていく。活動場所や施設使用等、今年度の課題や反省を踏まえ、より良い活動になるように改善していく。** **■生涯学習課や体育協会の情報を得ながら、他の競技についても移行が進められるように検討する。**

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けた実証研究

成果報告書

学 校 名【　玉村町立玉村中学校　】

1　学校の概要	○学校規模：１年５クラス･２年５クラス･３年４クラス･特別支援２クラス ○生徒数：１年１４６人・２年１５８人・３年１３５人・全校４３９人 ○部活動数：運動部１１・文化部３
2　部活動の概要	〔 部活動名 〕　男子ソフトテニス部・女子ソフトテニス部 〔学年・人数〕　男子：３年５人・２年８人・１年４人　合計１７人 女子：３年８人・２年８人・１年８人　合計２４人 〔 顧　　問 〕　４名　男子主顧問：経験歴・指導歴有り 副顧問：経験歴・指導歴有り 女子主顧問：経験歴・指導歴無し 副顧問：経験歴・指導歴有り
3　地域の実施主体・指導者の概要	〔団体名〕玉村町ソフトテニスクラブ 〔指導者〕大墳　将平　石原田　茂 〔指導歴・資格等〕
4　地域の実施主体・指導者との連携・工夫の概要	○地域指導の中心となる人と連絡を密に取り合い、大切なことは早めに部員に連絡ができるようにした。 ○大会の時など、地域の指導者と顧問が会ったときに、平日の部活の様子や休日のテニス教室の様子を情報交換した。
5　活動の概要 活動の様子	○活動時期 ・２学期から毎週土曜日に実施 ・暑い時期は 8:00～11:00　それ以外の時期は 9:00～12:00 ○活動場所 ・玉村中と玉村南中のテニスコートを隔週で使用 ○活動内容や流れ等 ・アップ、基本練習、試合形式練習等
6　主な成果	○ソフトテニスを専門に活動している大人から直接指導してもらえることから、部員の意識が高まり、個々の実力もアップしている。 ○となりの南中とも一緒に活動できることで、お互いに部員のやる気も高まってきた。 ○地域の人が指導することで、中学生と地域の人のつながりができた。 ○顧問が土日にプライベートな時間を確保できるようになり、平日の仕事にも集中できるようになった。
7　主な課題	○隔週で男女に分けて実施したが、地域移行の活動がない日は普段通り顧問が指導にあたることになった。 ○毎週参加したいという部員もいたため、途中から男子の日に女子も参加したり、女子の日に男子が参加することもあった。 ○地域移行の活動が「男子のみ」の日は玉村中女子が顧問の指導の下、普通の部活動としての土曜日が月に１回できてしまったが、結果として「練習試合をしたい」という部員の声に応えることができた。 ○クラブの人に指導してもらっているときに、部員同士でトラブルが起きた場合、その指導が行き届かないことがある。(後日、トラブルがあったことがわかり、顧問が指導すべきか難しい場面があった。) ○学校のテニスコートを使う場合、他の部活がいなくなり教員が一人もいなくなった後、トイレや門扉の戸締まり等が心配だった。 ○地域移行の活動日に欠席する場合の連絡方法をどうするかが悩ましかった。顧問に連絡がきても困るので、部長に連絡をするか、Google classroom を使うか、何も連絡をしないか、いろいろな考えがあった。 ○新年度、１年生が入部してから保険の加入手続きがあり、地域移行の活動が始まるのが８月下旬になってしまう。何とか年間を通して活動できるような方法が必要である。
8　学校部活動の地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	**○地域移行の指導者の中に、中学校のことをよくわかっている人がいるとよい。(玉村中の場合は、以前玉村中に勤務しソフトテニス部顧問の経験のある人がいたため、大変助かった。ただ、こういうパターンはすくないのではないかと思う。)** **○活動場所の確保が大切。また、活動場所が中学校ではなくなった場合に、自転車による生徒の移動距離が長くなってしまう場合がある。慣れない道を移動する場合には交通事故の心配も出てくる。** **○部員の中にはやる気もあり能力も高い生徒もいれば、集中力もなくなかなかうまくならない生徒もいるが、地域の人がそのことを理解した上で指導する必要がある。** **○部活にもよるが、学校以外の場所で活動する場合、必要な道具をどうするのかを検討しておく必要がある。道具がたくさん必要な部の場合は保護者に運んでもらう必要が出てくると思う。**

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けた実証研究

成果報告書

学 校 名【　玉村町立玉村中学校　】

1　学校の概要	全校生徒約 450 人 部活動数 14
2　部活動の概要	〔 部活動名 〕　軟式野球部 〔学年・人数〕　３年４人　２年２人　１年５人　合計 11 人 〔 顧　　問 〕　２名　主顧問：経験歴・指導歴有り 副顧問：経験歴・指導歴有り
3　地域の実施主体・指導者の概要	〔団体名〕玉村南メビウス 〔指導者〕秋山　貴広ほか 〔指導歴・資格等〕
4　地域の実施主体・指導者との連携・工夫の概要	○指導者と顧問とで練習日程や生徒の出欠席などの連絡を密に行った。
5　活動の概要 活動の様子	○令和５年 10 月から実施 毎週土・日曜日　8：30～12：00　角渕
6　主な成果	○顧問がいない場合であっても生徒が野球をできる環境ができた。 ○顧問が必ずしも部活動を見なくてはならない状況が改善され、顧問が土日両日の休みを取ることが可能になった。
7　主な課題	○少年野球チームに交ざっての参加となるため、ボール、グラウンドの大きさが小学生と中学生とで異なり、違和感を覚える生徒がいる。 ○指導者と保護者との連絡が顧問を介して行っているため、スムーズな連絡ができていない。
8　学校部活動の地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	**○指導者と保護者が直接やりとりできる連絡網を作っていただきたい。** **○指導者に中学校グラウンドに来て指導を行っていただければ、中学生規格のグラウンドやボールで野球をできるのでお願いしたい。**

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けた実証研究

成果報告書

学 校 名【　玉村町立南中学校　】

1　学校の概要	○生徒・学級数など １年生（121 人：4 クラス）　２年生（118 人：4 クラス） 3 年生（131 人：4 クラス）　特別支援（21 人：4 クラス） 落ち着きがあり真面目な生徒が多く、学校生活や部活動に意欲的に、前向きに取り組んでいる。 ○部活動数 ・令和４年度　18 部 ・令和５年度　14 部（活動生徒：170 名）
2　部活動の概要	〔 部活動名 〕　ソフトテニス部 〔学年・人数〕　３年８人　２年９人　１年３人　合計２０人 〔 顧　　問 〕　２名　主顧問：経験歴・指導歴　無し 副顧問：経験歴・指導歴　無し
3　地域の実施主体・指導者の概要	〔団体名〕玉村町ソフトテニスクラブ 〔指導者〕大墳　将平　石原田　茂　他 〔指導歴・資格等〕
4　地域の実施主体・指導者との連携・工夫の概要	○年度初めの保護者会に参加していただき、クラブの方針、指導してくださる指導員の方々の思いを、保護者の方に伝える場を設定した。 ○年間予定表を配布していただき、生徒は参加出来るところで参加している。地域の方は人数を少なくして指導したいということだったが、学校ごとの割り当て日以外の日も参加したい生徒は、参加させてもらっている。 ○欠席者は、部長副部長にあらかじめ伝え、来ているはずなのにいないという事がないようにしている。（生徒の安全面への配慮）
5　活動の概要 活動の様子	○６月から実施（令和５年度） 毎週土曜日（隔週土曜日の場合もある）　9:00－12:00 （夏期：8:00－11:00　熱中症対策のため） 玉村中学校・玉村南中学校　テニスコート ○クラブチームの方が、学校に来て指導してくださっている。
6　主な成果	○生徒・顧問・保護者の方同士の交流が、今まで以上に持てるようになったこと。 ○教員の負担軽減に繋がったこと。
7　主な課題	○練習試合等は、顧問が組むため、地域練習の参加できる日が少なくなるのと、教員の休日の負担は変わらない月もあること。 ○指導していただいているにも関わらず、大会引率や大会時にベンチに入れないため、試合の結果に対する指導をしていただけないこと。
8　学校部活動の地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	**○指導を引き受けてくださった方がいて実現しました。学校外の活動ではありますが、持ち物・きまり等は学校のルールの延長にすると地域の方と連携をとりながら、ルール作りをしました。** **○地域の活動に参加する際の保険については、今年度は町に負担していただきました。** **○練習ボールを地域の方が町の予算で用意してくださり、学校の普段の練習から使用させていただきました。** **○地域移行が進み、練習試合や大会での参加が地域ごとになることで、さらに地域移行が加速すると思います。**

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

休日の運動部活動の段階的な地域移行に向けた実証研究

成果報告書

学 校 名【　玉村町立南中学校　】

1　学校の概要	○生徒・学級数など 新１年（１２１：４クラス）新２年生（１１８：４クラス）新３年生（１３１：４クラス）特別支援（２１：４クラス） 落ち着きがあり真面目な生徒が多く、学校生活はもちろん部活動に参加している生徒は、積極的に活動に取り組んでいる。 ○部活動数 令和４年度　１８ 令和５年度　１４（活動生徒：１７０名）
2　部活動の概要	〔 部活動名 〕　軟式野球部 〔学年・人数〕　３年９人　２年５人　１年０人　合計１４人 〔 顧　　問 〕　２名　主顧問：経験歴・指導歴有り 副顧問：経験歴・指導歴有り
3　地域の実施主体・指導者の概要	〔団体名〕（少年野球）玉村南メビウス 佐波郡玉村町角渕グランドを拠点に活動。 〔指導者〕秋山　貴広 〔指導歴・資格等〕
4　地域の実施主体・指導者との連携・工夫の概要	○手を挙げてくださった代表の方と一緒に、保護者会を開催。部活動の現状や顧問の思い、地域団体としていずれは玉村町としてクラブチームを立ち上げたいという代表からの思いを説明した。 ○メビウスの年間予定表を中学生にも配布し、参加できるところで参加している。基本的に、練習に参加するときには、顧問が参加人数を事前に連絡している。（それ以外でも行きたい生徒は参加させてもらっている。） ○毎回ではないが、月に数回は顧問も顔を出している。
5　活動の概要 活動の様子	○１０月から実施 毎週土日どちらか８：３０～１２：００　佐波郡玉村町角渕グランド ○少年野球の活動に混ざる形ではあるが、中学生にも数名の指導者がつきっきりでついて、指導をしてくれている。
6　主な成果	○生徒や顧問が地域の方々との交流を今まで以上にもてるようになったこと。 ○教員の負担の軽減につながったこと。
7　主な課題	○本格的なシーズンになると、大会に向けた練習試合を優先するため、地域の活動に参加できる日が少なくなる。
8　学校部活動の地域スポーツクラブ活動への移行を進める上でのポイント	**○手を挙げてくれる方がいたので、参加につながりました。学校と地域のチームのお互いが活動しやすいように、少年野球への参加は学校の活動外として位置づけています。** **○地域の活動に参加するときの保険については、今年度は町に負担していただきました。** **○いずれは、少年から大人までが集まれるようなクラブチームを目指したいうという代表の方の考えがあり、顧問としても協力していきたいと思いますが、現状としてクラブチームでの中体連の大会参加はルール上厳しいようです。もう少し参入しやすいものになると、地域移行がさらに加速すると思います。**

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域クラブ活動体制整備に係る検討委員会等の開催

成果報告書

市 町 村 名 【　榛東村　】

担 当 部 局 【　榛東村教育委員会　】

1　委員会等の名称	榛東村部活動地域移行検討会 榛東村部活動地域移行協議会
2　委員会等の目的	榛東村における持続可能な部活動の実現とともに、教職員の負担軽減を図ることを目的とした休日の部活動の段階的な地域移行に向け、部活動の在り方について協議するため、榛東村部活動地域移行協議会を設置した。また、協議会を構成する委員や榛東村における地域移行の方向性の案を作成するために、その前身となる部活動地域移行検討会を設置した。
3　委員会等の開催概要	榛東村部活動地域移行検討会 第１回　９月１１日（月）15：00～17：00　榛東村役場３０２会議室 第２回　１１月９日（木）15：00～17：00　榛東村役場３０２会議室 榛東村部活動地域移行協議会 第１回　３月１５日（金）19：00～21：00　榛東村役場３０２会議室（予定）
4　委員会等の委員（団体・役職等）	榛東村部活動地域移行検討会 榛東中学校　校長 榛東中学校　部活動指導員代表 地域スポーツクラブ　代表 榛東村教育委員会事務局　事務局長 ※協議会は上記に加え、下記の委員が参加 榛東村スポーツ協会会長 榛東村スポーツ推進委員委員長 榛東村スポーツ少年団本部長 榛東村総合型地域スポーツクラブ　しんとうスポーツクラブ会長 榛東中学校ＰＴＡ会長
5　委員会等の内容概要	検討会 第１回 ■地域スポーツクラブ活動の実施状況について ■榛東村における休日部活動の地域移行の方向性について 第２回 ■榛東村部活動地域移行協議会の開催について ■榛東村における休日部活動の地域移行の類型について 協議会 第１回 ■休日部活動の地域移行における国や県の動向、取組事例等について ■榛東村における部活動の休日部活動の地域移行の方向性について
6　主な成果	■地域移行に関する構想を協議したり、共有したりすることによって取組をスタートすることができた。 ■検討会で地域クラブ活動に実際に携わっている人材の話を聞くことで、休日部活動の地域移行における現場目線での課題点を知ることができた。 ■検討会を開催する中で指導に関わる人材の技能を向上させるための研修会の実施が挙げられ、開催することができた。
7　主な課題	■地域移行に関わる構想や今後の予定を生徒や保護者、教職員、地域住民等に周知し、理解や協力を求める場の設定や方法。 ■持続可能な部活動の活動体制を構築するために必要な指導者の確保。
8　委員会等を開催・進める上でのポイント	**■地域移行の方向性や方針、スケジュールをある程度絞った上で、協議会を開催することにより有意義な委員会につながる。** **■地域移行に関わる団体を絞った上で委員会を開催することが重要である。**

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域クラブ活動体制整備に係る検討委員会等の開催

成果報告書

市 町 村 名 【　吉岡町　】

担 当 部 局 【　吉岡町教育委員会・生涯学習室　】

1　委員会等の名称	吉岡町部活動地域移行検討委員会
2　委員会等の目的	持続可能な部活動の実現とともに、部活動における教職員の負担軽減を図ることを目的とした休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、吉岡町立吉岡中学校の生徒が参加する地域クラブ活動の在り方を検討するため、吉岡町部活動地域移行検討委員会を設置した。
3　委員会等の開催概要	《第１回》　６月　２日（金）19：00～21：00　吉岡町文化センター研修室 《第２回》　９月２９日（金）19：00～21：00　吉岡町文化センター研修室 《第３回》　１月２６日（金）19：00～21：00　吉岡町文化センター研修室 《日本スポーツ少年団本部長との意見交換会》 １１月３０日（金）14：00～15：30　吉岡町文化センター研修室
4　委員会等の委員（団体・役職等）	群馬大学共同教育学部　教授 群馬県教育委員会健康体育課学校体育係　指導主事 吉岡町スポーツ協会　副会長 吉岡町スポーツ少年団　本部長 吉岡町スポーツ少年団　剣道団長 吉岡町スポーツ少年団　バレーボール団長 吉岡町スポーツ少年団　野球団長 吉岡町スポーツ少年団　ミニバス団長 吉岡町スポーツ少年団　サッカー団長 吉岡町スポーツ少年団　柔道団長 吉岡町スポーツ少年団　卓球団長 吉岡町スポーツ少年団　バドミントン団長 吉岡町スポーツ推進委員会　会長 吉岡町スポーツ協会ソフトボール部　部長 吉岡町スポーツ協会陸上部　部長 吉岡町スポーツ協会ソフトテニス部　部長 ベルアスレチックジャパン　代表 吉岡町文化協会　会長 吉岡中学校　校長 吉岡中学校　ＰＴＡ会長 吉岡中学校　部活動指導員代表

5　委員会等の内容概要	《第１回》 ■研修　演題：「学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に関する国や県の動向」 講師；群馬県教育委員会健康体育課指導主事　小山靖弘 様 ■休日部活動の段階的な地域移行に向けた構想とこれまでの取組について ■令和５年度の取組（案）について ■休日部活動の段階的な地域移行に係る交付金について 《第２回》 ■吉岡町休日部活動の段階的な地域移行推進計画（案）の検討 ■活動報告（吉岡中生徒・保護者アンケート結果、ＹＡＭＡＤＡのブカツへＧＯプレイベント、吉岡中部活動顧問と事務局との部活動別意見交換） 《第３回》 ■休日部活動の段階的な地域移行に関するパネルディスカッション ■地域移行実施状況報告（各実施団体から） ■今年度のまとめと次年度に向けて 《日本スポーツ少年団本部長との意見交換会》 ■吉岡町の休日部活動の段階的な地域移行の取組について ■日本スポーツ少年団からの情報提供（ＮＯスポハラ）
6　主な成果	■休日部活動の段階的な地域移行に関する吉岡町の構想を、協議・検討することができるとともに、推進計画を策定・公表することができた。 ■地域スポーツクラブ（スポーツ少年団、スポーツ協会専門部）が休日部活動の受け入れを前向きに捉え、取組を始めてくれた。 ■地域スポーツ指導者と吉岡中部活動顧問とを繋げることにより、指導者同士が地域移行に関する期待や課題を共有することができた。また、地域移行に向けた部活動（競技）ごとの取組を開始することができた。 ■「地域の子供は、学校を含めた地域で育てる」という目標に向けて、地域と学校が連携・協働した活動を展開することができた。
7　主な課題	■地域移行に関する吉岡町の構想や取組、今後のスケジュールなどの情報を、生徒や保護者、教職員、地域住民等に周知し、理解・協力を求めるための周知方法と場の設定。 ■地域スポーツ指導者や地域スポーツクラブ活動参加生徒保護者の経済的な負担を減らすための、町としてできる財政的な支援の継続。 ■持続可能な体制構築のために必要な指導者の量的・質的な確保。 ■チームスポーツにおける地域移行の難しさ（練習試合の設定や対応等）。
8　委員会等を開催・進める上でのポイント	**■地域移行を中心となって推進する部局（事務局）を明確にした上で、地域移行に関する自治体としての構想や方向性、プラン、スケジュール等の検討を早急に行い、できるだけ早期に検討委員会を組織すること。** **■自治体の特性や地域の資源を生かした地域移行を進めるべく、学校と地域スポーツクラブ等を繋げる担当者（コーディネーター）をおくこと。** **■生徒・保護者・教職員・地域指導者・地域住民等の思いを大切にして、持続可能なスポーツ・文化芸術活動体制を構築すること。**

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域クラブ活動体制整備に係る指導者研修会等の開催

成果報告書

市 町 村 名 【　吉岡町　】

担 当 部 局【　吉岡町教育委員会・生涯学習室　】

1　研修会等の名称	第１回：指導者トレーニング講演会 第２・３回：指導者のためのコーチング研修会
2　研修会等の目的	○地域スポーツ指導者及び教職員の資質向上 ○地域スポーツ団体関係者に対するスポーツ医科学に基づいたトレーニング情報の提供
3　研修会等の開催概要	①　１１月１４日（火）18:00～20:00　吉岡町文化センター研修室 講師１：木村典代氏（高崎健康福祉大学教授） 演題１：「スポーツ活動をするジュニア選手の食事の在り方」 講師２：武井健司児氏（ぐんまスポーツ整形外科マネージャー） 演題２：「選手・指導者のためのコンディショニングの実際」 ②　１２月２３日（土）13:30～16:30　吉岡町文化センター研修室 講師：茂木 ゆういち 氏（ホットコミュニケーションズ代表、国際コーチング連盟認定コーチ） 演題：「子供のやる気を引き出す指導法」 ③　２月１２日（月・休）14:00～17:00　吉岡中学校体育館 講師：茂木 ゆういち 氏（ホットコミュニケーションズ代表、国際コーチング連盟認定コーチ） 演題：「子供のやる気を引き出す指導法②」
4　研修会等の参加者	スポーツ少年団の指導者・スタッフ スポーツ少年団の保護者 小中学校の教職員 地域移行事務局職員　等
5　研修会等の内容概要	第１回 演題１：「スポーツ活動をするジュニア選手の食事の在り方」 （１）基本の食事 （２）水分補給 （３）食環境 演題２：「選手・指導者のためのコンディショニングの実際」 （１）アスレチックトレーナーの役割 （２）選手・指導者のためのコンディショニングの実際
	第２回　演題「子供のやる気を引き出す指導法」 （１）そもそも、「やる気」とは？ （２）あなたが子供の時にやる気になった時ってどんな時？ （３）あなたのやる気を削いだものは何ですか？ （４）スポーツとは？ （５）やる気を引き出すのは何故ですか？ 第３回　演題「子供のやる気を引き出す指導法②」 （１）地域指導者による女子バレーボール部の指導を通した研修 （２）子供のやる気を引き出す声がけや支援の仕方 （３）地域移行に関する座談会
6　主な成果	■スポーツ少年団指導者・スタッフが研修会を通して、子どものやる気を引き出す指導法を学ぶことができ、地域スポーツ指導者の資質向上に繋がった。 ■地域スポーツ指導者のみならず、保護者や町内学校教職員、近隣地域移行事務局など、幅広い参加者があった。 ■グループや２人組で話し合うことにより、一緒になってより良い指導法を考えるきっかけとなった。
7　主な課題	■指導者研修会の参加者を増やすための手立て。（周知方法等） ■指導者研修会の参加対象の範囲。 ■地域指導者に求められている研修会の演題（内容）と魅力ある適切な講師。
8　研修会等を開催・進める上でのポイント	**■地域の実態とニーズに即した研修会演題（内容）を設定すること。** **■興味を引く研修会チラシの作成と周知方法の工夫。** **■対話型の研修を取り入れると、和やかで活動的な研修を実施することができる。**

令和５年度　群馬県地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域クラブ活動体制整備に係る検討委員会等の開催

成果報告書

市 町 村 名 【　玉村町　】

担 当 部 局 【　玉村町教育委員会　】

1　委員会等の名称	部活動地域連携検討委員会
2　委員会等の目的	・部活動の在り方について検討することを通し、生徒の多様な体験を充実させ、健全な成長を促す。 ・学校と地域、保護者の協力体制を構築することを通し、三者の協力体制を図る。 ・子供たちに運動することの楽しさを味わわせたり、運動を好きになるきっかけを作ったりすることを通し、小中学生の体力の向上を目指す。
3　委員会等の開催概要	第１回　　７月３１日（月）15：30～17：00　役場３階北会議室 第２回　１１月　１日（水）15：30～17：00　役場３階北会議室 第３回　　２月１６日（金）15：30～17：00　役場３階北会議室
4　委員会等の委員（団体・役職等）	関口　雅晶　（玉村中校長） 吉田　知宏　（玉村南中校長） 高橋　幸伸　（玉村小校長） 井埜　雄介　（玉村中 PTA 会長） 内田　貴之　（玉村南中 PTA 会長） 櫛渕　広幸　（玉村小 PTA 会長） 設楽　政江　（スポーツ推進員） 田村　秋雄　（町体育協会会長） 山﨑　光晴　（ソフトテニスクラブ代表） 秋山　貴広　（スポ少玉村南メビウス代表） 栗崎　浩　　（町スポーツ振興係　係長） 原田　知典　（町教委学校教育課教職員係） 小山田　健　（町教委学校教育課生徒指導係）
5　委員会等の内容概要	第１回 ・県推進計画及び概要の確認 ・ソフトテニス部地域移行の現状報告 ・軟式野球部と少年野球チーム「メビウス」との協力について ・部活動の拠点校指導について 第２回 ・玉村町推進計画の原案の提示と検討 ・軟式野球部の地域移行の現状について ・部活動数の適正化と拠点校部活動の今後の方向について
6　主な成果	・県の地域移行推進計画を参考に、玉村町としての現状や方向性を示せるように協議しながら、町版の推進計画の策定に向けて進んでいる。 ・学校の代表、保護者の代表、町のスポーツ振興に関わる方、行政担当者による協議により、幅広い視点から協議をすることができた。昨年度に引き続き協力を得られているソフトテニスに加えて軟式野球の地域移行が実現できた。 ・地域移行に協力していただいているク団体の代表に参加していただき、実態や問題点を確認することができた。
7　主な課題	・国が示す地域移行の最終的な方向性として、完全に学校から部活動をなくす方向で進めるのか、ある程度共存するのかというゴールが曖昧なため、協議の方向性が見えなかったり、できることが限られてしまったりした。 ・保護者代表として小中学校のＰＴＡ会長を委員としているが、任期の問題により、継続的な議論が難しくなってしまう。
8　委員会等を開催・進める上でのポイント	**■受入れ団体として考えられるスポーツ少年団や地域クラブについては、体育協会やスポーツ振興関係部局の協力が不可欠であるため、それらの関係者に参加してもらい、情報提供を定期的にしてもらうことが必要。** **■受入れ団体関係者に委員会の参加をしてもらうことで、学校、クラブそれぞれの課題や現状を共有することができ、実際の活動の実現に向けた協議を進めることができる。**

実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

拠点校数	１校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	サッカー,男子バスケットボール,女子バスケットボール,野球・・・
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	１部活	１種目	野球

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	群馬県立中央中等教育学校
地域クラブ活動に移行した部活動数（実証事業）	野球部
地域クラブ活動で実施した種目	野球
運営主体名	群馬ダイヤモンドペガサス
運営類型	地域スポーツ団体運営型（民間スポーツ事業者運営型）
１か月あたりの平均的な活動回数	野球：６回
指導者の主な属性	群馬ダイヤモンドペガサス
活動場所	群馬県立中央中等教育学校
主な移動手段	車
１人あたりの参加会費等（年額）	実証事業のためなし
１人あたりの保険料	行事参加者の傷害危険担保保険 生徒１人あたり：２６６円/１回

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）

イメージ図

群馬県

↓ 実証事業委託

(株)スポーツマネジメント
（群馬ダイヤモンドペガサス）

【実証事業】
・拠点校生徒の受け入れによる野球部指導
・指導者謝金の対応、保険の加入、拠点校との調整
・アンケートの実施

↑ 実証事業へ参加

群馬県立中央中等教育学校

実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：ア．関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

・関係者との連絡調整　拠点校の選出にあたり県スポーツ振興課及び高崎市と打ち合わせ、その結果「県立中央中等教育学校(前期)」が引き受けてくれることになりました。
・指導助言等の体制整備　先ずは、球団内で実施内容及び課題について打ち合わせを重ね、結果を拠点校の顧問に報告、その後実施内容について打ち合わせをしました。

取組の成果

活動の場所は、拠点校としました。指導内容は、「技術向上」よりも「体力向上」について重点項目としました。
結果は、「体力測定」「体組成測定」に於いて別紙のような結果が出ましたが、
約１か月間の短期間であった為、数値の増減はさほどありませんでした。

特に工夫した事項

指導内容の内、「技術向上」に関しては、実施期間が短期間であること及び拠点校顧問の指導方法もあるので基本的な指導に努めました。
「体力向上」に関しては、県スポーツ振興課並び群馬大学の協力を得て体組成測定により筋肉量等を数値化することが出来ました。
各日程での指導者の中にトレーナー(柔道整復師等)を配置し万が一の事故に緊急対応できる体制としました。
指導(全６回)終了後、生徒向け・保護者向けアンケートを実施しました。
※（生徒２１８件・保護者４０７件)

今後の課題と対応方針

指導に当たっては、安全に実施できることが第一です。
・緊急時に適切な対応ができる体制(人員含む)づくり　・保険の加入が必須(拠点校と相談の上、現状の保険と同等の保険に加入しました)
今回は、拠点校内での活動でしたが、大会参加、遠征試合等で移動がある場合の移動手段や、その際の責任の所在はどうするか等は事前に決めておく必要があります。　また、地域移行になった際、受益者の費用負担等の設定をどうするかも検討する必要があります。
全体としては、アンケート結果を踏まえ、検討し取り組んでいく必要があります。
・保護者への説明不十分(現段階でのアンケート結果参照結果)　・指導者資格の明確化(要、不要含む)